

青年の人生は漁港とともに



重田勇人 (20) 漁師2年目

このコーナーは、地域の課題解決について研究している龍谷大学政策学部の学生の皆さんが取材しました。有田市でのフィールドワークなどでの活動を通じて感じた「縁側」の魅力を多くの人に伝えるため、学生自ら取材を行い、記事を書いています。今回は、「お魚勉強会」で出会った一人の青年漁師さんにお話を伺いました。 ※ここでの「縁側」とは、「ホッとできる自分の居場所」という意味です。

「子供の頃から父の仕事場である箕島漁港に連れられ、魚を売る手伝いをしてきた。」そう語ってくれたのは、爽やかな笑顔が印象的な重田勇人さんである。勇人さんは父親の仕事の手伝いの他に、地元で友達と秘密基地を作って遊び場にする等この港で多くの時間を過ごした。そして今では漁師として、高校を卒業してから漁師になったという重田さん。なぜ漁師の道を選んだのかと尋ねたところ、「父が漁師というところもあり、父が漁師というところもあって」と答えてくれた。そして、漁師になってから父親との親子船が始まった。こうして「箕島漁港」はいつのま

にか勇人さんの居場所となり、憩いの場となっていた。 そんな勇人さんには面白いエピソードがある。いつものように夜中の三時に船を出したところ、魚をあげる時に足が滑って真冬の極寒の海に落ちてしまったことがある。そこから這い上がるしても上の服を七枚、下の服を四枚も着ていたため自力ではどうしようも出来なかった。そこで、船についているフックで釣り上げられたそうだ。今では笑い話でもあり彼の武勇伝となっているのだが、この話を持ち出してくれたのは勇人さんではなく、彼の先輩である漁師さんであった。ちよびり照れくさそうにインタビューを受ける勇人さんであったが、彼の周りにはいつの間にか仲間が集まり、皆から愛されていることや、漁師さんたちの絆を感じることが出来た。今後のことについて聞いてみると「これからも怪我をしない限り漁師はずっと続けていく。」と語ってくれた。勇人さんにとって子

今回イベントにも参加させていただいて有田市の魅力を改めて感じました。毎月開かれる新鮮な魚の朝の販売「とれぴち朝市」では地域の方はもちろん、地方からのリピーターの方も数多くいると伺いました。そこには温かく受け入れてくれる有田市の方々、箕島漁港の漁師の方々の優しさがあるからだ、私達も身をもって実感しています。勇人さんの憩いの場でもある「箕島漁港」はすべての人にとっての船つき場であり一人ひとりの船を休め癒しを与えてくれる場所であると感じました。



取材を終えて・・・ 左から順に 坂元弘輝・良元雪華・猪尾雪乃 宮田 滯・鳥本真帆・仁木貴康

市民アイ ボランティアグループ

代表者 上野山貴巳さん

6月27日(土)、ここに会の臨時総会が上野山代表の自宅で開かれました。集まってきたメンバーはみんな笑顔でわきあいあいとしており、なごやかな雰囲気。今まで行ってきた活動のことや思いを語り合っていました。



わきあいあいと意見を交わす皆さん

デイサービスルームの清掃 毎月第3土曜日に福祉館なごみのデイサービスルームの清掃を行っています。床にごびりついた汚れを落とすのに苦労するようですが、少しでも人の役に立ちたいという思いで取り組んでいるとのこと。 また年末には文成中学校の生徒と一緒に大掃除をし、ボランティアの楽しさを伝えているそうです。

- 「ボランティアのつた」 支え合い みんなのために おたやかに つくった時間を 分ち合い オーラ集う 笑顔は宝物 みんなで励もう

♪「めんこい仔馬」のメロディーにのせて♪

東日本大震災 宮城県へ1700個のお手玉

大震災の後、仮設住宅で暮らす人たちに癒しを届けたいと、お手玉を手作りして送ったそうです。お手玉の中は貝殻。浜辺で貝殻を集め、塩気をとるため水洗いしてから、手縫いで包んだそうです。その数なんと1700個。出来ることをしたいという、ここに会員の皆さんの思いが伝わってきます。



集めた貝殻を水洗いする皆さん

優しさをいったり、思いやり形にこころがけが

ここに会が始まったときから代表を務める上野山さん。活動への思いを聞きました。

幅広い活動をされていますが、大変なことはないですか？

自分の心の赴くままに活動しています。体を動か



代表の上野山貴巳さん

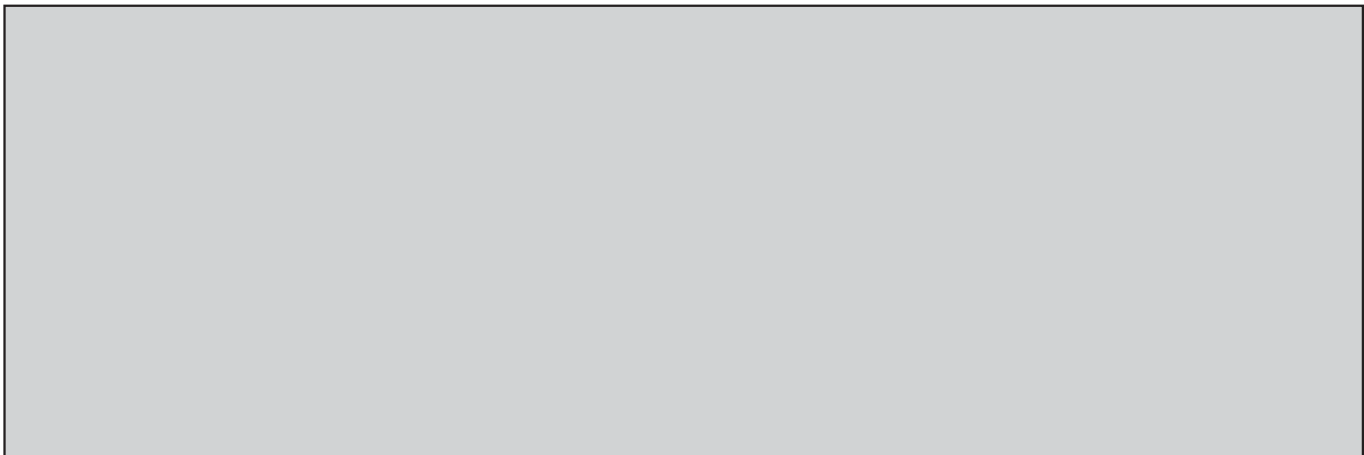
供の頃からの思い出が詰まった箕島漁港はこれからも自分の成長と共に思い出のページが刻まれていく特別な場所となっていくだろう。

取材を終えて・・・

し、楽しんでやっているの、自然体でいられますね。 —ここに会員のこれからについては？ —一緒に活動してくれる仲間が一人でも増えたら、と思います。特に若い人が少ないので、ぜひ参加してほしいですね。 —代表にとってボランティアとは？ —奉仕は自分磨きだと思いません。ボランティアを始め、家族のことなど、今まで当たり前だと思っていたことにも、感謝するようになりました。

ここに会 会員17名 平成20年、長年の活動が評価され、和歌山県社会福祉協議会会長表彰受賞

広告



広告

